九州女子大学附属折尾幼稚園　令和６年度　学校評価　（3.0 以上Ａ　2,0～2.9　Ｂ　1.9 以下Ｃ）

重点的に取り組む目標	評価項目	評価指標及び評価結果						総括評価	コメント 評価結果に関する説明・意見等
		基準	取り組み指標	取組結果	基準	成果指標	成果評価		
伸び伸びと育ち合う子ども（幼児の健康な身体つくり）	幼児の年齢や発達に応じた関わりの中で、遊びを通して学び、生きる力の基礎を育む保育の展開。	４	生活や活動に見通しを持ち自ら行動し、自分なりの目標を持ち意欲的に取り組んでいることを認める	2.8	４	進級・進学に期待を持ち、自分の力を発揮しながら自信を持って主体的に行動する。	2.65	B	繰り返し行っていくうちにルールが分かる子が教え、助け合う姿が見られた。互いの気持ちを知り、場面を共有する楽しさを経験できる様に促しながら、保育や環境の工夫を行った。トラブルになった時など、仲介しながら声を掛けることで、互いの気持ちを知り、場面共有する楽しさを経験出来るように促した。子ども同士で新しいルールを決め、遊ぶ姿もみられる中で、遊びが途切れる事もあるが、一緒に遊ぶ充実感を味わいながら、実体験を通して興味が深まり、次のステップに進むことができた。
		３	「あそび」にはルールがあることを知り、考えたり、試したりする姿を見守る。		３	友だちと積極的に身体を動かす活動に取り組み、ルールを守って一緒に遊ぶ充実感を味わう。			
		２	友だち同士の関りを見守りながら必要に応じて援助する。		２	友だちとあそぶ中で気づいたことや発見したことを保育者や友だちと工夫しながらあそぶ。			
		１	すすんで外に出て遊ぶことを楽しみ、遊びの中で必要なやりとりを知らせる。		１	保育者や友だちと一緒に戸外で好きな遊びを見つけて、身体を動かすことを楽しむ。			
子どもの人権を尊重する保育	幼児を主体に、一人ひとりの育ちや家庭環境の考慮、丁寧な関りを持ち、保育や成長を仲間と共に語り合う。	４	友だちのいいところに気づいて、互いのことを尊重し合い、高めたりしている姿を認める。	2.8	４	友だちのことを励まし、認め合うことで、自分や相手のことを大切にし、思いやりを持って過ごす。	2.85	B	日々の保育の中に友だちを意識し、視野が広がるよう積極的にコミュニケーションを取り、また子どもたち一人ひとりのすきなことは何かを考え、関りを深める中で、安心して園生活が送れるようになったと考える。 行事を通して、友だちの頑張りを誉めたり認めたり一緒に取り組むことで、やり遂げることへの充実感を得ることができた。今後も「尊重」「高め合う」「認め合う」気持ちを育てられるよう努めていく。
		３	子どもたちの話しや思いを傾聴し、友だちとの関わりを深めるために、援助し見守る。		３	自分の気持ちや相手の気持ちに気づき、伸び伸びと自分を表現できるようになる。			
		２	一緒にあそぶ中で、気持ちに寄り添い共感し、子どもや保護者との信頼関係を築く。		２	自分や家族以外の存在に気が付いて、友だちや保育者に興味を持ち、関りを深める。			
		１	様々な思いを抱いて登園していることを意識し、子どもたちの気持ちや態度を受け入れ、認める。		１	安心して幼稚園に通う。			

安全で安心な園づくり	幼児の安全対応力を高め、生命の安全教育に取り組む。	4	安全に遊んでいる様子を見守りながら、必要に応じて援助をする。	3.2	4	自分たちで必要な道具や物を準備し、ケガをしないように遊ぶことができる。	2.85	A	定期的に片付け方や遊び方の確認をすることで、正しい使い方を身に付けるようにしてきたが、予想もしていない事が起こることもあり、その都度、環境構成を見直してきた。危険と判断した時には声を掛け、正しい遊び方や楽しく遊べる方法を提供し、なぜ危険であるのか理由を伝え、また視覚的に分かりやすく伝えるようにした。まわりの子どもたちにも声を掛け、約束ごとを共有することで、みんなで安全に過ごそうとする姿もみられた。自分自身で考える事を繰り返すことで、安全に楽しく過ごす事を意識できるように努めていく。
		3	保育者や友だちと一緒に遊ぶ中で、約束やルールを決める。		3	安全に気を付けながら日常生活に道具を取り入れて遊べるようになる。			
		2	道具の正しい使い方や、保育室での安全な過ごし方、園庭での遊び方について知らせる。		2	好きな遊びをする中で玩具や道具の使い方を知る。			
		1	子どもたちの生活する環境を考え、整える。		1	幼稚園の道具や玩具に興味を持つ。			